

光明寺だより

第15号

浄土真宗本願寺派

光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583

「春の記念講演Ⅱ」のご案内

♥とき 4月28日(土) 午後2時

♥講師 広島県 教専寺尊住 福間義朝 先生

♥演題 「現代人が忘れたもの」

正月の記念講演会でお話をして頂いた藤田徹文先生が、あるところで「先生、なんでお寺にお参りせんのかのですか?」と尋ねられたことがあったそうです。

その時のことを先生は次のように話されています。

……「なんで、お寺に参らんといかのですか?」という問いには面食らいました。答がないですよ。

なぜならば「米は何のために食べるのですか?」と問われるのと同じで、食べるために作られたはずですから、食べるのが当たり前で、それ以外理由がないのです。

お寺もそうです。

何のために参るのか。

お参りするために建てられたのです。

そのことで『改邪抄』(かいじやしょう)という書物に「浄土真宗のお寺は、こういうわけで建てられたのです」ということが書いてあります。

それによりますと、親鸞聖人以前の仏教は一部の貴族や特権階級の人のためだけのものであって、一般民衆はまったく相手にされていなかったのです。

お寺参りも、おはなしもなかなか聞けない私たちの先祖は、何の遠慮もなく、普段着のまま飛び込んで行って、いつでも腹を割って、み教えを聞かせてもらえる、そんな場所が欲しいと思われ、苦しい生活を切りつめて、お寺を建てられたのです。そのお寺に「なんで参らないかのですか?」と問われても返事に困るわけです。お寺は、門信徒や有縁の方々が遠慮なく集い、み教えに出会って頂くための場所なのです。……お経には「広開浄土門」と説かれています。浄土の門はいつも開けばなしだということです。

それは「何の気兼ねもいりません普段着のままが入ってらっしゃい。いつまでもあなたを待ち続けます」という如来さまの深くて広いお心の表れです。

そして、それは「広開寺院門」でもあるのです。

私たちを見守り続けておられる阿弥陀さまは、あなたのお参りをいつまでも待ち続けておられます。

四月二十八日、是非ともお参り下さい。 合掌



ひとくちほうわ

一口法華



*ガン畑

『ガンなんかこわくない』という本の中に次のような一文があります。

「たけのこを掘っても、すぐにたけのこが生えてくるのは、そこが竹やぶであるからである。ガンをとっても、すぐまたガンができるのは、体全体がガン畑になっているからである・・・」

これを読んだ時、私は、今の日本は国全体が救いようのない「ガン畑」になっているのではないかと思いました。

どこを掘っても「ガン」のたけのこしか出てきません。

政治も、経済も、教育も・・・

しかし、恐ろしいことに、明日の日本を背負わねばならない子供たちの間にも「ガン症状」が広がっているということです。

今のところ、新たに法律を作ったり、制度を変えてみたりと、色々と手だてを講じていますが、いずれも「ガン畑」を改良するほどの効果は現れていないように思います。

はたして、この「ガン畑」を改良する有効な方法はないのでしょうか。

私はあると思います。

但し、現在のようないくつかの方法では難しいと思っています。

なぜかと言いますと、私たちは、何か問題が起こると、起こった問題そのものを一所懸命に議論をします。

「あーしたらどうだろうか。こうしたらどうだろうか」と・・・それが法律や制度を変えようという形になって現れているのだと思います。

ところが、ここで私たちは最も基本的なことを忘れています。

それは、そういう問題を起こしているのは人間であるということを考える時、人間そのものを深く突きつめていくということをおぼろげに忘れているのです。

「ガン畑を何とかしなければ・・・」

と色々な方法を講じることがもちろん大事なことです。しかし、そんな「ガン畑」を作ってしまった人間そのものを突きつめていくということの方がもっと大事なことでと思います。

私は、そのことを誰よりも厳しく突きつめられたのは親鸞聖人だと思っています。



そして、注目すべきことに、「念仏のみ教え」が息づいた地域には、凶悪な犯罪が起こらなかったという歴史的な事実があるということです。

私は、この事実を思う時、人間そのものを突きつめていくという「念仏のみ教え」こそが「ガン畑」の改良に最も有効なものではないかと思うのです。

念仏のみ教えは人間の虚妄性（うそ、いつわり）や罪悪性（善を行えない）を徹底的に突きつめた教えです。

その教えに出会えば必ず、「愚かな我が身だなあ。至らぬ我が身だなあ」という深い傷みが生まれてきます。

それと同時に「念仏のみぞ、まことにしておわします」という、確かなよりどころに出会えた深い喜びが生まれてきます。

私は、この「深い傷み」と「確かなよりどころを持つ」ということが、現代人に最も欠けていると思うのです。

そして、それが「ガン畑」を作り出した一番の要因だと思います。

救いがたいわが国の現状を思う時、私たちは、今こそ謙虚に真剣に、親鸞聖人の説かれた「念仏のみ教え」に耳を傾けなければならぬと思うのです。



浄土真宗のしきたりQ&A

お墓編



「お墓を新しく建てたので、お性根入しょうねいれをして下さい」という依頼いらいを受けることがよくあります。

予定した日に墓地にお参りしてみるとこれがまた大変たいへんなっていることが多いのです。

石碑の横に五輪塔ごりんとうや水子地藏みずこじぞうが建ててあったり、おまけに石碑の向きが入口から見て尊厳そんげんになっていたり、「よく、ここまでこだわってお墓を建てたものだナ」と感心かんしん(?)させられることがあります。

そこで、墓石を建てる時の注意点をいくつか挙げてみます。

*墓相ぼそうや方角にとらわれない

お墓の向きや形によって幸、不幸が生じることは決してありません。どなたでもお参りしやすいように建てましょう。また、石碑に屋根や宝珠ほうしゅもつけません。

*石碑には「南無阿弥陀仏」と

刻きざみましょう

実はこのことが浄土真宗のお墓として一番大事なことです。また皆さんには一番なじみのないことだと思ひます。心情的には、お墓は亡き人が眠つているところで、お墓参りはその故人を偲しのぶためにしています。

然しか論ろんその気持ちは大切なものですがただ、お墓は亡き人を偲しのぶだけでなく、「私もいずれ、阿弥陀さまのお救いに預あづからねお浄土じやうどに参らせて頂きます」と、亡き人も生きている人も、共に阿弥陀さまのお救いの中にいることを喜んでいく、その尊い縁えんの場ばにしていくことが、大事なのです。

そのようなことから、私たちの宗派では、石碑に「南無阿弥陀仏」と刻むのが最も良いとされています。

その場合、家名は台石に刻むのが良いでしょう。



れいひょう

*「靈標」とせず「法名碑」とする

みずこじぞう

*水子地藏、五輪塔などは建てない

私のよりどころとなり、礼拝らいはいの対象になるのは阿弥陀如来一仏です。それ以外のものは建てません。

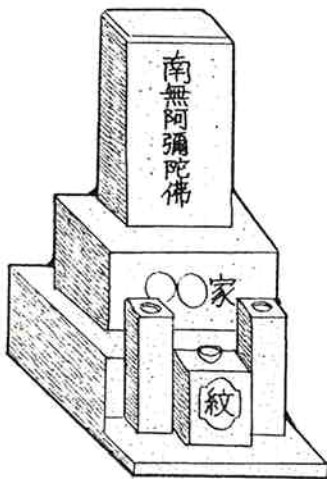
*「吉日」の文字は刻まない

浄土真宗では、日の良し悪しは言いません。また建てる時期(うるう年など)にもこだわられません。

*「お性根入れ」ではなく

「建碑法要(式)」と言います

*左の図のようなお墓が、浄土真宗のみ教えにあったものになります。



お知らせコーナー



しゅうそうたんえ
「宗祖降誕会」記念講演会

＊とき 五月二十六日(土) 午後一時半
＊講師 岡部正顕 先生

親鸞聖人の誕生をお祝いする仏事です。
ご参拝をお待ちしております。

「小室等コンサート」チケット発売中

チケットご希望の方は光明寺まで
前売り券 一千円(当日券 一千五百円)
＊五月二十一日 午後七時 開演

今年から「新盆の法要」は、お寺で
あらぼん
行います。お寺にお参り下さい。

新盆のお家には「ご案内状」を七月下旬ま
でにお送りします。

期日は八月十一日(土)の予定です。
お参りの時間は案内状に書いています。
法要の時間は約二十分です。

お寺の電話番号

0897 (53) 4583

(注)テレフォン法話とお間違いないように!

お願い

『光明寺だより』を
ご家族の皆さんで
お読み下さい



＊テレフォン法話

0897 (53) 4585

言葉のプレゼント

いちおく そうさいばんかん
一億総裁判官

じぶん いがい
自分以外

みな ゆうさい
皆有罪

＊「反日的な国」はどこだろう
と考えてみました。

どうも、それは「日本」で
はないのかなと最近感じる
ことが多くなりました。

「光明寺友の会」募集中!
入会ご希望の方は光明寺まで
申込書を取りに来て下さい。



＊先月二十五日、突然の激震が中四国
地方を襲いました。

「芸予地震」と命名されたようです。

地震直後、たくさんの方から、ご心配
頂き、有り難うございました。

建物は揺れに揺れましたが、幸いにも
全く、被害がありませんでした。

念のため、施工業者さんに細部の点検
をしてもらいましたが、異状ないとの
ことです。

被害に遭われたお家には衷心よりお見
舞いを申し上げます。

墓地の方は、何か所か灯籠が倒れてい
ました。ご確認下さい。

＊昨年まで「新盆(あらぼん)」の法
事は、お申し込みのあったお家だけ行
っていました。今年からは新盆のお
家全員に、お寺にお参り頂いて「新盆
合同追悼法要」を行います

法要の次第は次の通りです。

一、「讃仏偈」読経

一、読み立て

一、参拝者のお焼香

十組ずつ法要を行います。

時間は、約二十分程度です

お参りの時間は「ご案内状」でお知ら
せします。